

イベントレポート 『2012 K耐久東海シリーズ 第3戦』

開催日 2012年7月15日(日)

9:30 決勝スタート 12:25 チェッカー

天候 曇り時々晴

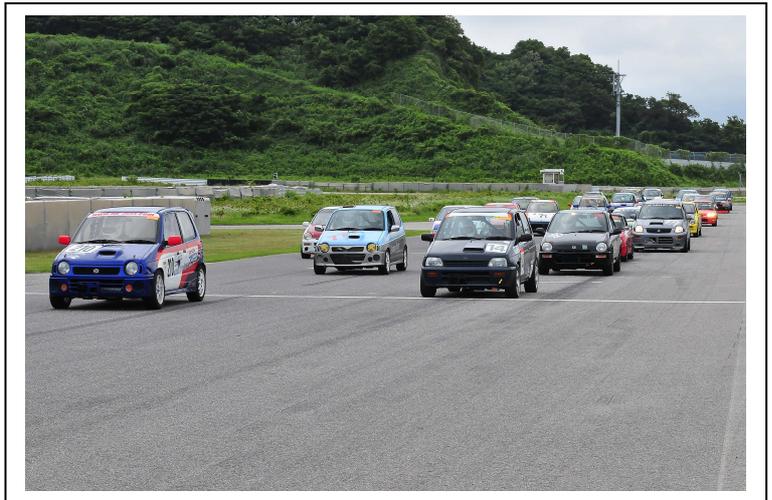
最高気温 28.0℃(11時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 30台

2012年K耐久東海シリーズの第3戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

東海地方は梅雨が明けておらず、当日の朝も空は厚い曇りに覆われた状態。天気予報も「曇り時々雨」で降水確率50%であったが、レース終盤には予想が大きく外れて太陽が覗き始める。雨の心配は一転、暑さと闘う厳しいコンディション下でのレースとなった。



■ KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

開幕戦では#100「HACもらいものビート」が優勝、第2戦では#16「ガレージシヤマトウデイ」が優勝と、2戦連続で旧規格車勢が勝利を飾っているこのクラス。

今回、この2チームに挑むのは、昨年からの経験十分な#39「ステージワンレーシングアルトV」と#383「カワセミブルーミニカ」、そして新規参戦の#5「ユーロレーシングアルト」といった、3台の新規格軽自動車勢。

旧規格車が3連勝するのか、それとも新規格車が昨年最終戦以来の勝利を飾ることが出来るのか。



■ 予選

予選1位となったのは前回優勝の#16「ガレージシヤマトウデイ」。タイムは1'09.948で、このクラスで唯一10秒を切ってくる。

2番手には開幕戦優勝の#100「HACもらいものビート」が、1'10.984で続き、上位を旧規格車勢が独占する。

3位には#39「ステージワンレーシングアルトV」が1'11.877で続き、昨年最終戦勝者の意地を見せる。

以下、4位は初参加の#5「ユーロレーシングアルト」が1'13.778で、5位は#383「カワセミブルーミニカ」が1'14.407で続く。

しかし、新規格車はピット時間短縮のハンディーをもらえるため、決勝ではこれを活かして上位に食い込んで来る可能性もある。



■ 序盤

1時間が経過した時点では、#16「ガレージシヤマトウデイ」が、48LAPで1位をキープする。

続く2位と3位は47LAPで、#5「ユーロレーシングアルト」、#100「HACもらいものビート」と続く。4位の#383「カワセミブルーミニカ」と、5位の#39「ステージワンレーシングアルトV」は44LAPで、トップグループからは少し水を開けられてしまう。



■終盤

2 時間経過時点では、#5「ユーロレーシングアルト」がトップに躍り出る。周回数は 83LAP をマークし、暫定ながら総合でも 9 位の好ポジションに付ける。

2 位には#100「HACもらいものビート」が 81LAP で続く。

これを 80LAP で 3 位の#16「ガレージイシヤマトウデイ」と、同じく 80LAP で 4 位の#39「ステージワンレーシングアルトV」が追いかけて、ラスト 1 時間での表彰台争いに臨む。

5 位の#383「カワセミブルーミニカ」は 76LAP にとどまり、表彰台はやや厳しいか。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、#5「ユーロレーシングアルト」。しかし車両規則違反があったため、章典外となってしまう。この結果、1 位となったのは 117LAP を走行した#16「ガレージイシヤマトウデイ」。第 2 戦に続く 2 連勝を飾った。

2 位の#39「ステージワンレーシングアルトV」は 116LAP でフィニッシュ。1 位との差は僅か 1LAP であり、次回に望みをつなぐ結果となった。

3 位には 115LAP を走行した#100「HACもらいものビート」が入り、3 戦連続での表彰台をGETした。また 4 位の#383「カワセミブルーミニカ」は 112 周でのフィニッシュとなった。

今回も旧規格車が優勝する結果となったが、新規格車も互角のラップ数を記録してきているので、残り 2 戦では新規格車の奮闘が期待される。



■ KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

シリーズポイント上では 32 点の#60「明智自動車SPトウデイ」と、30 点の#25「アカミネコマルトウデイ」が僅差で 1 位を争っている。しかし 3 位に付ける#911「CRAZYZYトウデイ1号」は第 2 戦で優勝と勢いに乗っている。

唯一の新規格車である#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」も開幕戦では予選 1 位のタイムをマークするなど実力は拮抗。今回はこれらのチームに加え、初参加の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」がエントリーし、5 台による争いとなった。



■ 予選

予選 1 番手のタイムをマークしたのは、シリーズ 1 位につける#60「明智自動車SPトウデイ」。タイムは 1'09.002 を記録する。

2 番手には#25「アカミネコマルトウデイ」が 1'09.320 と僅差で続く。

3 番手は 1'10.812 で#911「CRAZYZYトウデイ1号」が、4 番手は 1'11.374 で#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が入り、シリーズ順位そのままのオーダーとなる。

初参加の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」は完熟走行に徹し、タイムは 1'16.079 にとどまる。



■ 序盤

1 時間が経過した時点では 48LAP の#60「明智自動車SPトウデイ」がなおも 1 位の座を守り続ける。

2 位には#911「CRAZYZYトウデイ1号」が浮上し、トップと 1 周差の 47LAP につける。

しかし、3 位の#25「アカミネコマルトウデイ」は 46LAP、4 位と 5 位の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」と#61「スマイルショップ多治見トウデイ」はともに 45Lap と周回数に大きな差はなく、勝負の行方は中盤戦以降にゆだねられる。



■ 終盤

2 時間が経過してもなお、#60「明智自動車SPトウデイ」が 1 位をキープする。周回数は 84LAP で頭一つのリード。

2 位と 3 位は 79 週の同一ラップで、#911「CRAZYZYトウデイ1号」と#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」がしのぎを削る。

4 位の#25「アカミネコマルトウデイ」も 78LAP に付けており、表彰台争いの行方はラストまでわからない。

5 位の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」は 75LAP と、少し差が開いてしまう。



■最終結果

終始トップの座をキープした#60「明智自動車SPTウデイ」が、121周でトップチェッカーを受け、開幕戦以来の2勝目をあげた。

2位には終盤に追い上げた#25「アカミネコマルトウデイ」が入り、これで3戦連続での準優勝となった。周回数は117周であった。

3位と4位は116LAPの同一周回数。この争いを制したのは#911「CRAZYZYトウデイ1号」であった。惜しくも4位となった#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は、表彰台までわずか11秒及ばなかった。

5位の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」はペナルティによる減算もあり、110LAPでフィニッシュとなった。

今回の結果、シリーズポイントは#60「明智自動車SPTウデイ」が頭一つリードしたが、残りはまだあと2戦あるため、シリーズポイント争いの行方はわからない。

また、唯一の新規格車である#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は惜しくも表彰台を逃したが、旧規格車と十分に戦える位置にまで来ていることは明らかであり、残り2戦での結果を見守りたい。



■ KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

前戦では13台がエントリーしたKNOクラスだが、今回はエントリーが6台と、完走すればまとまったポイントが確約されることになる。しかも開幕2連勝の#296「小山輪業KO-Rトウデイ」とシリーズ4位に付ける#880「タカタCCMCトウデイ」が欠場とあり、シリーズを追うチームにとってはこの上ない状況。

このチャンスを活かし、シリーズポイントを大きく伸ばすことができるのはどのチームか。

■ 予選

予選1時計をたたき出したのは、#99「チームオーシャンズトウデイ」。タイムは1'05.968で総合4番手の好位置を確保する。

続く2位は#23「チームミニトウデイ」で1'06.207を記録。#99号車に続くグリッドに付け、シリーズ2位と3位のチームが予選から火花を散らす。

予選3番手は#82「i TECHワコーズトウデイ」で、タイムは1'06.954。以下、4位に1'07.528で#3「マケラーレンMBS・ウトウデイ」、5位に1'08.290で#71「あんじょうトウデイ」、6位に1'08.367で#38「デモリッションエグゼトウデイ」と続くが、各チームともグリッド位置は非常に近く、決勝での混戦を予感させる。

■ 序盤

1時間経過時点では、1回目の義務ピットを先延ばした#23「チームミニトウデイ」が56LAPで頭一つリードしてトップに立つ。

2位には#99「チームオーシャンズトウデイ」が51LAPでしっかりとトップに続く。

3位の#82「i TECHワコーズトウデイ」、4位の#38「デモリッションエグゼトウデイ」、5位の#71「あんじょうトウデイ」は共に49LAPで並び、表彰台を懸けて中盤戦に突入する。

#3「マケラーレンMBS・ウトウデイ」は序盤に2回のピットインをしたため、46LAPの6位にとどまる。

■ 終盤

2時間が経過すると、予選1番スタートの#99「チームオーシャンズトウデイ」が再びトップに浮上してくる。周回数は88LAPで総合でも3位となる好位置を走行する。

2位は86LAPで#23「チームミニトウデイ」が続き、ラスト1時間での逆転優勝に望みをつなぐ。

3位には#38「デモリッションエグゼトウデイ」が83LAPで、4位には#71「あんじょうトウデイ」が80周で続くが、少し周回数が開いてしまう。

5位の#3「マケラーレンMBS・ウトウデイ」は2時間を目前76周でストップしてしまい、復帰は微妙な様子となる。

3位争いを繰り広げていた#82「i TECHワコーズトウデイ」は、1時間半の時点でコースアウトを喫し、73LAPの6位まで順位を落としてしまう。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは 127 周を走り切った#99「チームオーシャンズトゥデイ」。総合でも 3 番手となる見事な結果で、嬉しい初優勝に花を添えた。

2 位には 125LAP の#23「チームミニトゥデー」が続き、悲願の初優勝はまたもお預けとなってしまった。

3 位の #38「デモリッションエグゼクトゥデイ」は 122LAP。KNOにクラスチェンジし 3 戦目にして、表彰台に上る結果を出した。

4 位にはコースアウトから復帰した#82「i TECHワコーズトゥデイ」が 112LAP で完走を果たした。

#71「あんじょうトゥデイ」はラスト 30 分でリタイヤとなったが、規定周回数をクリアする 95LAP を走行していたため、完走扱いとなりポイントが付いた。

#3「マケラーレンMBS・ウトゥデイ」は 2 時間を目前に停止したまま復帰は果たせず、リタイヤとなってしまった。

■ 今回の結果を受けてシリーズポイント争いは、#99「チームオーシャンズトゥデイ」と、#23「チームミニトゥデー」の 2 チームが 42 点で同点 1 位となった。今回不参加の#296「小山輪業KORトゥデイ」も 40 点に付けており、終盤戦はこの 3 チームによるシリーズポイント争いが激化しそうである。



■KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

今回は7台のエントリーとなったKTCクラスだが、7台全てが開幕戦から3戦連続でエントリーしている車両。

2戦目を終えた時点でのポイント争いは、35点でトップの#46「カーエナジー・アルトワークス」が頭一つリード。これを、27点の#95「DXLマックイーンカプチーノ」、24点の#392「Zammersヴィヴィオ」、22点の#330「DXLミヤマカプチーノ」が追う展開。

しかし、このクラスは表彰チームの並び順が毎回大きく変わる傾向があるだけに、シリーズの行方は全くわからない。



■予選

予選1位のタイムを出したのは今季からの新参加チームである#330「DXLミヤマカプチーノ」。1'07.744をマークし、参加3戦目にして初優勝を狙う。

2番手には昨年度のチャンピオン、#392「Zammersヴィヴィオ」が1'08.523で続き、前回不調のリベンジを狙う。

3位にはシリーズリーダーの#46「カーエナジー・アルトワークス」が続く。タイムは1'09.012でトップを視野に入れるグリッド位置に付ける。4位は1'09.300の#95「DXLマックイーンカプチーノ」が入り、ここまでシリーズ上位4台が占めることになる。

以下5位に1'09.477の#112「白須賀会カプチーノ」、6位に1'09.518の#21「ZESTルブロスセルボ」と続く。



■序盤

1時間が経過した時点では、49LAPを走行した3チームがトップ争いを繰り広げる。1位には#46「カーエナジー・アルトワークス」がジャンプアップし、2位に#392「Zammersヴィヴィオ」、3位に#330「DXLミヤマカプチーノ」が続く。

さらに4位から6位までは48LAPで並び、上位6台はほとんど団子状態。#95「DXLマックイーンカプチーノ」が4位、#21「ZESTルブロスセルボ」が5位、#112「白須賀会カプチーノ」が6位に付ける。また、7位の#93「マリンダイビングアルト」も47LAPに付け、表彰台圏内をキープする。



■終盤

中盤までトップを走っていた#46「カーエナジー・アルトワークス」であったが、1時間半時点でのピットインで長時間のピットストップを喫し、トップ争いから後退してしまう。

2時間経過時点でトップに立ったのは、#112「白須賀会カプチーノ」で83LAPをマーク。しかし2位の#21「ZESTルブロスセルボ」も同一周回で追走する。

3位には82LAPの#392「Zammersヴィヴィオ」が続き、ラスト1時間での逆転を狙う。

4位の#95「DXLマックイーンカプチーノ」と5位の#330「DXLミヤマカプチーノ」は共に81LAPに付け、表彰台を目指す。

6位の#93「マリンダイビングアルト」も80LAPで、表彰台に望みをつなぐ。



■最終結果

終盤にトップに立った#112「白須賀会カプチーノ」が 1 位の座をキープし続け、トップでチェッカーを受けた。121 周を走り切り前回りタイヤのリベンジを果たした。

2 位から 4 位までは 120LAP 同士での争い。この争いを制したのは #392「Zammersヴィヴィオ」で、こちらも前回 7 位に沈んだリベンジを果たした。

3 位には #21「ZESTルブロスセルボ」が入り、今季初表彰台を GET した。

ここまで 2 戦連続で表彰台に乗っていた #95「DXLマックインカプチーノ」は 4 位でフィニッシュとなり、惜しくも表彰台を逃した。

以下、5 位に 118LAP の #330「DXLミヤマカプチーノ」、6 位に 116LAP の #93「マリンダイビングアルト」が続いた。

途中で長時間ピットストップした #46「カーエナジー・アルトワークス」は、112LAP の 7 位でフィニッシュとなった。

今回の結果を受け、シリーズポイント争いは #46「カーエナジー・アルトワークス」と #392「Zammersヴィヴィオ」が 39 点の同点で 1 位に並ぶことに。

続く 3 位の #95「DXLマックインカプチーノ」も 37 点の僅差に付け、さらに 4 位の #330「DXLミヤマカプチーノ」が 30 点、5 位の #112「白須賀会カプチーノ」が 28 点と、このあたりまではシリーズ優勝の可能性を残す展開となる。

第 4 戦で頭一つ抜け出すチームが現れるのか、それとも最終戦までトップ争いは混戦となるのか。



■KTOクラス(軽ターボのクローズドクラス)

開幕戦から今回第3戦まで、毎回6台のエントリーとなっているKTOクラス。このうち開幕から2戦連続出場した5チームのポイントは、みな驚くほど接近している。

1位に付ける#210「ZESTルブロスDXLアルト」の28点を筆頭に、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」と#8「DXLグローバルカプチーノ」が揃って27点の2位に付ける。

また、続く#666「ヴィスコンティIMWあると」と#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は共に20点で同点4位。

このうち#666「S. C. C. Vあると」は今回欠場となったが、代わりに#14「ガレージイシヤマアルトバン」が2戦ぶりにエントリーしてきた。後半戦に向けてポイントを上積み出来るのはどのチームになるのか。

■予選

1番手となるタイムを叩き出したのは、前回優勝で勢いに乗る#210「ZESTルブロスDXLアルト」。1'04.348の総合トップタイムをマークして、ポールポジションをGETする。

続く2番手には#14「ガレージイシヤマアルトバン」が入ってくる。たいむはトップから遅れることわずか0.2秒の1'04.577。最前列グリッドを2台のKTOクラスマシンが占拠する。

3位には1'05.769を出した#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が入り、総合でも3番手の好位置に付ける。

4位の#8「DXLグローバルカプチーノ」は1'06.937、5位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は1'07.405で、ここまでの5チームはグリッド4列目まで入り、高レベルな展開が予想される。

久々に参加の#820「東海麗神愚ADVANセルポ」は1'11.253のタイムにとどまる。

■序盤

スタートからトップの#210「ZESTルブロスDXLアルト」はハイペースで引き離しを狙うが、2位の#14「ガレージイシヤマアルトバン」はピタリと追走。30分が経過してもこの2台の差はわずか2秒。

1回目のピットインを終えた後の1時間経過時点では、#14「ガレージイシヤマアルトバン」が52LAPでトップに立つものの、2位の#210「ZESTルブロスDXLアルト」も同一周回で続く。

3位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」は51LAP、4位と5位の#8「DXLグローバルカプチーノ」と#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は50LAPに付け、中盤以降の巻き返しを狙う。

6位の#820「東海麗神愚ADVANセルポ」は47LAPと、少し水を開けられる。

■終盤

2時間経過時点でもトップの#14「ガレージイシヤマアルトバン」と#210「ZESTルブロスDXLアルト」は同一周回でのトップ争いをひり広げる。周回数は総合でもトップとなる89LAPを走行する。

3番手には87LAPで#8「DXLグローバルカプチーノ」が浮上してくる。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」はやや順位を落とし、85LAPで4位となる。これに同じく85LAPで#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」が続き、表彰圏内を目指してラスト1時間に臨む。



#820「東海麗神愚ADVANセルポー」は81LAPで6位に付けるが、ラスト1時間での上位逆転はやや難しいか。

■最終結果

一進一退の攻防を繰り広げた#14「ガレージイシヤマアルトバン」と#210「ZESTルブロスDXLアルト」であったが、最終ラップでポジションを上げた#210「ZESTルブロスDXLアルト」が、2戦連続での優勝をものにした。周回数は128周で、総合でも1位となる結果であった。

昨年第3戦以来の優勝を目指した#14「ガレージイシヤマアルトバン」であったが、惜しくも2位でのフィニッシュとなった。

続く3位表彰台争いも秒単位での戦いとなる。126周を走り切った#8「DXLグローバルカプチャーノ」が、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」をわずかに3秒差で振り切り、3戦連続での表彰台をGETした。

#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は終盤までよく粘ったが、124LAPの5位でフィニッシュとなった。

久々の参加であった#820「東海麗神愚ADVANセルポー」は119LAPの6位でチェッカーを受けた。

シリーズポイント争いは、今回2戦連続優勝を飾った#210「ZESTルブロスDXLアルト」が48点で頭一つリード。しかし、続く2位の#8「DXLグローバルカプチャーノ」は39点で、残り2戦の自力優勝の可能性を残す。また3位の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」も37点に付けており、残り2戦で大きなポイントを続ければ、逆転優勝の可能性もある。

しかし、今回優勝を争った#14「ガレージイシヤマアルトバン」や、今回欠場の#666「ヴィスコンティBMWあると」が第4戦以降に参加してくるとなれば、上位争いに割って入る可能性が高く、シリーズ上位チームにとっては脅威となりそうである。

